

文脈を重視した英文ライティングの実践

杉 浦 正 好

1. はじめに

朝日ウイークリー誌において「英文ライティング道場」の連載を始めたのは2007年10月であり、ほぼ5年経過している。毎月第2日曜日に連載され、毎月の投稿者数は130人前後で推移している。愛知教育大学准教授である Anthony Ryan 氏（オーストラリア出身）との共同執筆であり、英語母語話者の視点を大幅に取り入れているのが最大の特徴である。基本方針は、和文英訳から一歩進んだライティング指導である。すでに英語の基本的な知識を習得しており、その知識を活用したいと考えている中級の英語学習者を対象としている。

和文英訳を使ったライティング指導は、文法項目別に配列されて作られたものが多い。文法事項や構文を習熟させるための有効な手段ではあるが、オーセンティックな内容とは言い難いものもあった。「英文ライティング道場」では、実際に使用されている日本語を自然な英語にすることを念頭に、「和文英訳から、ある程度の条件を設定した制限作文 (controlled composition) や、テーマを与えて自由に書かせる自由作文 (free composition) へと発展すること」(岡, 2011, p. 81) を目標に掲げている。自然な日本語を題材にするため、日本語の課題は朝日新聞社発行の「朝日新聞」・「週刊朝日」・「AERA」の記事から選んでいる。

2. 「英文ライティング道場」から

本稿で扱われている内容は、朝日ウイークリー誌で第37回(2009年10月)から第56回(2011年4月)に連載された内容を加筆修正したものであ

る。各項目の見出しの日本語は、下欄の枠組み内にある課題からの抜粋であるが、問題点を浮き彫りにするために少し変更してある。英文の添削例は読者からの投稿であるが、同じ理由で部分的に編集してある。

コメント内容は、理論的背景として *discourse analysis* (談話分析) を中心に置いている。日本語から英語にそのまま一字一句を置き換えるのではなく、状況や文脈を考慮して英訳することを意図している。英文として理解されるためには、原文にない内容も付加されることもある。文法的な誤りもさることながら、日英語の文脈(コンテキスト)上のギャップを埋めようというものである。

(1) (スクーターは) 運転が簡単で、スカートでも乗りやすく、若い女性に好評だ。

Being easy to drive and comfortable to ride even with skirt on, scooters are favorably received from young women.

⇒ Being easy to handle and comfortable to ride even in skirts, scooters are (being) favorably-received, in particular, by young women.

スクーターに「乗る」場合は、ride a scooter あるいは mount a scooter になり、drive は決して一般的ではない。これは、自転車やオートバイと同じく、「乗馬」の連想から来ている。一方、車は「馬車」からの連想で drive a car になる。ほかに、scooter に「乗る」は handle, control, operate など がふさわしい。同じ語彙を繰り返すのは英文として好ましくないため、類義語である動詞を適宜使い分ける必要がある。

「スカートでも」を even with skirt on としてい

るが, skirt は可算名詞なので, even with a skirt on, あるいは, even in skirts とする。

「若い女性に好評だ」の部分を受け身で表現したが, 前置詞に問題がある。Young women favorably receive scooters. を受け身にすると, Scooters are favorably received by young women. となり, from her とはならない。receive ~ from ... 「～を…から受け取る」に惑わされたものと思われる。

学校文法では現実の用法を説明できない場合がある。Scooters are easy to ride while wearing a skirt. とした投稿作品があった。その英文に関して, 「これでは, wearing a skirt の主語が scooters になってしまう。... while a woman is wearing a skirt. とすべきである。」と書き始めた。分詞構文で従属節の主語が省略されるのは, 主節の主語と同じ場合である。従って, この従属節には主語を補わなければならないと判断したのである。ところが, Ryan 氏から, “No, I don’t think so. I think it is okay because the ‘rider’ is implicit. Maybe best to avoid comment on this type.” 「そうは思わない。スクーターの乗り手は自明の事柄であり, その文は正しい。この種のコメントは避けたほうがよい。」との忠告があった。現実の言葉では, 理屈? よりも慣用が優先される例ではないであろうか。

【第37回課題】

オートバイが「市民の足」として使われているベトナムで最近, おしゃれなスクーターの人気が高まっている。運転が簡単で, スカートでも乗りやすく, 若い女性に好評だ。

(朝日新聞2009.8.10)

(2) 親ならば, 愛するわが子の才能を伸ばしてあげたいと思うもの。

It is quite natural that parents would like to develop the abilities of their loving child.

⇒ It is quite natural that parents would like to develop the abilities of their beloved children.

形容詞の loving は, “behaving in a way that shows you love someone” (*Longman Dictionary of Contemporary English*) である。She is a very loving mother. は「彼女は大変愛情豊かな母親である」となる。

従って, a loving child とすると, 「愛情豊かな子ども」になり, 「(他の人を愛する) 心優しい子ども」の意味になってしまう。この場合は, 「最愛の」あるいは「愛すべき」や「いとしい」の意味であるので, beloved, dear, darling, lovable, adorable などが形容詞としてふさわしい。

parents の間には「子ども」が1人の場合もあるが, children とするのが慣用であり, their beloved children となる。

なお, この課題文の「才能」は talent(s) 「(開花させることができる) 天性の才能」が最適だが, abilities も遜色ない。いずれの場合も, 伴う動詞は develop や cultivate がコロケーションとして好まれる。

【第38回課題】

親ならば, 愛するわが子の才能を伸ばしてあげたいと思うもの。そんな思いから, 早くから何らかの幼児教育を始める親が増えている。その早期教育が, 逆に子どもを苦しめている。

(週刊朝日2009.9.18)

(3) かつては, リクルーターが母校の後輩と会い, 人柄, 性格, 雰囲気などの感触を探った。

Recruiters used to meet students of their alma maters to examine their characters, personalities and feelings in the past.

⇒ In the past, recruiters used to informally meet job applicants from their alma maters in order to examine their characters, personalities and general demeanors.

「後輩」は多くの和英辞書には junior(s) とあるが, その基本的な定義は, “someone who has a low rank in an organization or profession” (*Longman Dictionary of Contemporary English*) である。つまり, 「同じ組織や職業内の下級の人」の意味であり, 日本の学校や部活動などの「後輩」との間には意識のずれがある。やっかいなことに, junior には「大学の3年生」の意味もあり, 注意が必要である。「母校の後輩」は students of their alma maters や students of the colleges or universities they had graduated from と表現するのが妥当であるが, この文脈では「母校の求職者」と考え, job appli-

cants from their alma maters としたほうが文脈に合っている (Ryan 氏)。

この文の「雰囲気」は「ある人が周囲に感じさせる特別な気分」(大辞泉)である。人の場合は、general demeanor か general air がふさわしい。atmosphere や ambience は人に関しては違和感がある。mood も人について述べる場合は「気分」になり、aura は「独特の雰囲気」でそれぞれ文脈と異なる。feelings については、Please tell me about your feelings about the speaker. (その話し手に対して、思うところがありますか) のように、「(ある事柄に対する) 感情」の意味である。

この位置では in the past は直前の feelings やその前にある examine を修飾することになる。文全体を修飾させるためには文頭に置くのがよい。

原文にはないが、informally を補うと、「非公式に会う」という内容が加わり、後半の内容と対比する効果が生まれる。

【第39回課題】

かつては、リクルーターが母校の後輩と会い、人柄、性格、雰囲気などの感触を探って逐一人事に報告した。短時間の面接や面談では仕事の適性が十分につかめないからである。

(AERA 2009.10.12 一部改定)

(4) 映画産業がもたらす経済効果を狙って、あらゆる州が映画ロケ誘致合戦に乗り出しているからだ。

This is because every state has been joining in the battle for attracting location sites for shooting films with a view to the economic effect to be brought about by the movie industry.

⇒ This is because every state has been joining in the battle to attract location shooting with a view to the economic benefits to be brought about by the movie industry.

最初の下線部には2つの問題点がある。第1に、同一文内で動詞の-ing形が3つあり、その内の2つが下線部にある。表現がくどくなるため、2つに整理する。第2に、location sites は「映画のロケ地」であり、移動は不可能である。

不動産であるから、自分の州に持ち込むことはできない。州が誘致するのは location shooting 「映画ロケ」である。よいロケ地を求めているのは映画会社であろう。

「経済効果」は1つだけの効果とは限らないので、economic benefits あるいは economic effects と複数形にする。economic effects 「経済効果」でもよいが、「プラスの経済効果」と「マイナスの経済効果」の両方を含意している。文脈から判断すれば、「プラスの効果」のみを想定しているので、positive economic effects あるいは economic benefits とするのが最善である。

「あらゆる州」は原文どおりに all (the) states や every state でよいが、本当にすべての州が誘致に乗り出しているかは疑問である。other states, a great number of states, almost every state (in the United States), numerous states とするのが内容として正確かもしれない。

「(映画)ロケ」は和製英語であるので注意が必要である。英語の location は屋外撮影の場所やセットのことで、ロケ地での撮影は location shooting、特に野外撮影は outdoor shooting あるいは outdoor filming という。

【第40回課題】

米国映画の多くは実は今や、ハリウッド製ではない。映画産業がもたらす経済効果を狙って、あらゆる州が映画ロケ誘致合戦に乗り出しているからだ。(朝日新聞 2009.10.28 一部改定)

(5) 結婚してもしなくてもどちらでもいいと考える人が70%に上がることが、内閣府が12月5日に発表した世論調査でわかった。

The poll conducted by the Cabinet Office revealed on December 5 that as large as 70% of the respondents didn't care whether they got married or not.

⇒ A poll released by the Cabinet Office on December 5 revealed that as many as 70% of the respondents didn't care whether they got married or not.

冠詞が問題である。the poll とすると、すでに言及された世論調査であるか、あるいは、内閣府による世論調査はこれまで1回しか実施されな

ったことになる。この内容は初出であり、数ある調査の中の1つと考えると、a pollとする。

誤りではないが、revealed on December 5 that ...とすると、内閣府による調査結果が発表されたのは別の日で、その内容が明らかになったのが、12月5日である可能性が生まれる。厳密に言えば、12月5日は世論調査の結果が発表された日であり、その内容が明らかになった日時は原文には明示されていない。

70%は数字であり、数字の規模についてはas many as 70%のように表記する。largeは、主として、形の大きさについて述べる。

【第41回課題】

結婚してもしなくてもどちらでもいいと考える人が70%に上ることが、内閣府が12月5日に発表した世論調査でわかった。年代別でみると、若くなるほどどちらでもいいが多かった。
(朝日新聞2009.12.6一部改定)

(6) 子供たちが携帯電話のトラブルに巻き込まれる悲劇は、日本だけでの問題ではない。

Tragedies that children get involved in cellular phone's trouble is not only Japan's domestic matter.

⇒ Tragedies involving children and cellphone-related trouble are not only Japan's (domestic) problem.

tragedy の後に「同格を表す that 節」を続けることはできない。この「同格を表す that 節」を伴うのは、the news that ...「…という知らせ」、the fact that ...「…という事実」などのような名詞に限られており、tragedy という名詞はその中に含まれていない。Tragic cases in which children get involved in ... にするか、修正文のように Tragedies involving children... にする。

和製英語の「トラブル」をそのまま組み合わせると誤解を招くことになる。cellphone trouble(s), cellphone's trouble(s), trouble(s) with/of cellphones とすると、「携帯電話の故障」や「携帯電話が起こしたトラブル」の意味になってしまう。この文面では、「携帯電話にまつわるトラブル」の意味であり、携帯電話そのものがトラブルを起しているわけではないので、-related を加え、cellphone-

related trouble 「携帯電話に関するトラブル」にする。ほかに、cellphone-related problems, some trouble related to mobile phone use, trouble caused by the use of mobile phones, troubles related to cell phones, trouble over cell phones としてもよい。

matter は「問題」というよりは「事柄」であり、悪い意味はないので、文意に合わせて problem に置き換える

【第42回課題】

子供たちが携帯電話のトラブルに巻き込まれる悲劇は、日本だけでの問題ではない。米国ではいじめや自殺につながった例も少なくないという。
(朝日新聞朝刊1月7日 p.1一部略)

(7) (パリ三越は)日本人の観光客向けにおみやげの販売に力をいれてきたが、ここ数年は赤字が続いていた。

Although it has been enhancing sales of souvenirs for Japanese tourists, it has been in the red for the last few years.

⇒ It has been concentrating/focusing on sales/the sale of souvenirs to Japanese tourists, but (it) has been in the red for the last few years.

動詞の enhance は improve や boost の類義語で、「高める」や「増やす」の意味である。従って、Although it has been enhancing sales of souvenirs ... は、「おみやげの販売を増やし続けてきたが…」の意味になり、原文の「おみやげの販売に力をいれてきたが…」とは異なる。後者の意味にするためには、enhancing ... を concentrating on ...「…に集中する」や focusing on ...「…に焦点を絞るに置き換える。

souvenirs for Japanese tourists でも文法的に正しいが、「日本人観光客向けのおみやげ」になってしまい、原文の「日本人観光客向けに」と少し異なる。動詞の sell を利用すれば、sell souvenirs to Japanese tourists となり、名詞の sale を利用すれば、sales/the sale of souvenirs to Japanese visitors のように、前置詞はいずれも to になる。

【第43回課題】

日本の百貨店としては初めて欧州に進出した「パリ三越」(Paris Mitsukoshi)が9月末で閉店する。日本人の観光客向けにおみやげの販売に力をいれてきたが、ここ数年は赤字が続いていた。(朝日新聞2010.2.5一部省略)

(8) (2人は)氷を降りると親友のようだったが、妹が飛び抜けた存在として騒がれ始めると、葛藤が生じた。

Away from ice rinks, the two looked like closest friends, but she couldn't help suffering from a mental conflict as her sister was becoming more and more celebrated as an outstanding person.

⇒ Off the ice (rink), the two looked like closest friends. However, Mai couldn't help experiencing an emotional conflict as her sister became more and more celebrated as an outstanding skater.

日本語の原文は1文であるが、情報が多く含まれている。2つの文に情報を分割して表現するほうが英語として明快になる。

スケートで有名な浅田姉妹に関する課題であるが、姉の「舞」と妹の「真央」との区別があいまいである。しかも、日本語では姉と妹で区別するが、英語の her sister では区別がつかない。誤解を避けるために、主題となっている姉の「舞」は Mai と明確にしたほうがよい。

「氷上で(は)」は on the ice で、その反対の意味である「氷から降りると」は off the ice がよい。いずれも定冠詞 the が不可欠である。away from ice rinks も誤りではないが、「アイスリンクから離れて」と物理的な意味になる。ちなみに、keep/put ... on ice だと、「…を保留する」の意味になる。

「葛藤する」を suffer from a mental conflict とすると、重度の精神的な病で苦しむことになり、意味が強すぎる。姉である「舞」自身の心の葛藤と考えるのが妥当である。

「真央」は人物的に優れているかもしれないが、この場合はスケーターとしての評価が認められたものなので、person を skater に変更したほうがよ

い。

【第44回課題】

浅田舞(まい)はスケートを始めた頃から、妹の真央(まお)のライバルだった。氷を降りると親友のようだったが、妹が飛び抜けた存在として騒がれ始めると、葛藤が生じた。

(AERA 2010.3.8 一部改定)

(9) (彼女は)夫を後方から支えるつもりのようなのだ。

She seems to intend to support her husband behind the scenes.

⇒ It seems (that) she intends to support her husband from behind the scenes.

to-不定詞が続いており、文体的にぎこちなくなる。It seems (that) ... などを使って、to-不定詞の重複を避ける努力が必要である。

「後方から支える」で多かったのは、support her husband behind the scenes であるが、support her husband from behind the scenes とする。support は、My plan to buy a motorbike didn't get much support from my wife and kids. の例のように、「～から(支える)、～からの(支え)」の意味を表す from が必要である。

behind his back とすると好ましくないニュアンスが含まれる。“If you do something behind someone's back, you do it without them knowing.” (Longman Dictionary of Contemporary English) の説明にあるように、「彼に内緒に、ひそかに」という意味になり、夫の足を陰で引っ張ることになる。また、from behind は、attack from behind 「背後から攻撃(する)」の例のように、競争や競技で主に使われるので、この文脈では不向きである。

下欄にある「活動的なファーストレディ像」を her image of Japan とすると、「彼女の日本に対するイメージ」になってしまう。her previous image of as an active first lady や her one-time image of as an active first lady のように、image に続く前置詞は of から as に修正したい。

【第45回課題】

鳩山首相の幸（みゆき）夫人が、最近控えめだ。活動的なファーストレディ像は影を潜め、一緒に外出する姿も少なくなった。夫を後方から支えるつものようだ。

（朝日新聞2010.4.27一部改定）

(10) あまりの過熱に、(輪ゴムの) 校内持ち込みを禁止する学校が増えてきた。

Their love for the rubber bands has become huge enough that more and more schools are making it school policy to ban them on school grounds.

⇒ The students' obsession with the rubber bands has become so huge that more and more schools are making it a policy to ban them on school grounds.

日本語の「あまりの過熱」には否定的なニュアンスがあるが、love ではそのニュアンスが伝わらない。英訳からは、「輪ゴムに対する彼らの愛情が十分深いので…」の意味になり、必ずしも困った状況とはいえない。これは、love にも、huge enough にもプラスの意味が含まれており、結果として、輪ゴスを校内持ち込み禁止にする理由が希薄になっている。love よりはもっと強い意味を持つ、obsession, demand, desire, craving などに置き換えると原文のニュアンスに近くなる。

英語として誤りではないが、同じ文中に school が3つあるのは文体としてぎこちない。1つを削除しても誤解は生まれない。

【第46回課題】

8年前に日本で考案された動物形の輪ゴムがいま、米国の小中学生の間で大流行している。あまりの過熱に、校内持ち込みを禁止する学校が増えてきた。

（朝日新聞2010.5.22）

(11) (高齢者は) 犯人にとっては狙いやすい「弱者」だとしても、突然大切なものを奪われた被害者の心の傷は深い。

Even if aged people are “the weak” or easy targets for snatchers, elders are deeply hurt for being suddenly deprived of their treasures.

⇒ Aged people are “the weak,” and therefore easy

targets for snatchers, and they are deeply hurt for being suddenly deprived of their treasures.

日本語の「…だとしても」がそのまま英語の even if ... に相当しない。譲歩を表す「even if ..., ~」の構文では、…が肯定的な内容であれば、～は否定的な内容になる。この場合は、「確かに…であるが…」と考えて、It is true that elderly people are the “weak” who can easily be targeted by criminals, but ... のように続けたほうがよい。

訳者は、the weak or easy targets for snatchers において、等位接続詞 or を言い換えのつもりで使用しているが、「弱者」と「(容易な) 被害対象者」は必ずしも同格にはならない。「弱者」であるため、被害に会う可能性が高いと考え、「原因と結果」として訳す必要がある。

elders だけでは単なる比較級であり、「年上の人」の意味になる。the elders にするか、aged people がすでにあるので、they にしたほうがよい。

【第47回課題】

70歳以上の高齢者のひったくり被害が、昨年の1.7倍と急増している。犯人にとっては狙いやすい「弱者」だとしても、突然大切なものを奪われた被害者の心の傷は深い。

（朝日新聞2010.5.30）

(12) 韓国の人気俳優パク・ヨンハ (Park Yong-ha) さんの自殺は日本のファンに衝撃を与えた。

The suicide of Park Yong-ha, a Korean popular actor, has given an impact to the fans in Japan.

⇒ The suicide of Park Yong-ha, a popular Korean actor, shocked his fans in Japan.

原則として、名詞の本質に関わる形容詞ほど近くに置かれる。An old Japanese teacher (of English) のように、「様態」→「出身(国籍)」→「名詞」の語順になる。この場合は、a popular Korean actor の語順になる。

日本のファンに衝撃を与えたのは、自殺が報道された時点であるので、時制は過去形にする。動詞 give の主語として、suicide のような抽象的で無生物の名詞は好ましくない。また、impact は

「影響」であるので、give an impact on を shock (動詞) に置き換える。

the fans でも誤りではないが、だれのファンであるか曖昧である。his fans とすれば状況から Park Yong-ha のファンであることが明白になる。

下記にある「激しい競争など」を and so on とした例が多かったが、これは話し言葉であり、書き言葉ではない。and the like, among others, among other + 名詞で表現する。

【第48回課題】

韓国の人気俳優パク・ヨンハ (Park Yong-ha) さんの自殺は日本のファンに衝撃を与えた。韓国メディア関係者は不安定な生活や激しい競争などがスターたちを苦しめていると指摘する。
(朝日新聞2010.7.6一部改定)

(13) さいたま市の住宅街で8月15日、76歳の無職男性が熱中症で死亡した。

A jobless 76-year-old man died of heat stroke in the residential area of Saitama City on August 15.

⇒ A 76-year-old jobless man died of heat stroke in a residential area of Saitama City on August 15.

英語では、76-year-old よりも jobless のほうが名詞の本質に関わる形容詞として扱われているため、A 76-year-old jobless/unemployed man の語順になる。

die に続く前置詞は from でも of でもよい。参考書の中には、「die of ... は、死に直結する病気に、die from ... は、怪我や過労などの間接的な原因の死に使われる」とあるが、実際は区別が難しく、必ずしも厳格に守られていない。この例でも、熱中症が死因の直接原因か間接原因であるかは不明である。

in the residential area of ... とすると、さいたま市には住宅地はヶ所しかないことになってしまう。いくつかある住宅地の1つと考え、in a residential area of ... とする。

【第49回課題】

さいたま市の住宅街で8月15日、76歳の無職男性が熱中症で死亡した。生活保護を受けず、

近所とも交流せずに息子と2人で暮らしてきたらしい。
(朝日新聞2010.8.20一部改定)

(14) 雑草化した花が大豆に覆いかぶり、収穫が難しくなるなどの被害が出るようになった。

The flowers-turned-weeds have hung over the beans recently, which has caused damage, such as troubles in harvesting them.

⇒ The flowers-turned-weeds have recently covered over the beans, thus increasing the likelihood of damage when harvesting them.

雑草化したアサガオが大豆に覆いかぶさるは、hang over 「上にたれてかぶさる」のではなく、cover over, 「おおい隠す」が状況に合っている。他に、overrun ... 「…にはびこる」、overgrow ... 「…一面に生い茂る」も使える。recently はこの位置でも誤りではないが、have と hung の間に入れる。副詞はできるだけ修飾する対象の近くに置くほうが、インパクトがあり、誤解を避けることもできる。

訳者は、関係代名詞 which の先行詞は先行する内容 (the flowers-turned-weeds ... recently) と考えているようだが、(which has caused であっても、) 名詞 'beans' であると誤解される可能性がある。such as ... は具体例を述べるが、「収穫の困難さ」は damage の具体例としてはあいまいである。

【第50回課題】

アサガオの仲間が雑草化して全国に広がっている。これから収穫期を迎える大豆畑では最近、大豆に覆いかぶり、収穫が難しくなるなどの被害が出るようになった。(朝日新聞2010.9.23)

(15) 中国の民主化を訴え続けた劉暁波氏 (54) にノーベル平和賞が贈られることが決まった。

Chinese imprisoned-dissident Liu Xiaobo is to be awarded this year's Nobel Peace Prize for his unswerving pursuit of democratic China.

⇒ Imprisoned Chinese dissident Liu Xiaobo is to be awarded this year's Nobel Peace Prize for his unswerving pursuit of a democratic China.

imprisoned 「拘留された」と比べると、「国籍」

は人物に関する本質的な情報なので、名詞 dissident 「反体制派の人物」の近くに置く。活動家の立場から見れば、democratic China は現存していない。架空の存在とすれば、不定冠詞の a を付ける必要がある。for his ... 以下は、for his long struggle for the democratization of China や for his persistent campaign for the democratization of China ならばよい。

【第51回課題】

中国の民主化を訴え続けた劉曉波氏 (54) にノーベル平和賞が贈られることが決まった。中国には、氏のように民主化と人権を訴え続けている人たちが、まだ何人かいる。

(朝日新聞2010.10.9一部改定)

劉曉波: Liu Xiaobo

(16) いまは、女性議員は衆参両院あわせて96人しかいない。

As of now, there are only 96 females *altogether* in the Upper House and Lower House.

⇒ At present, there are only 96 women *combined* in both the Upper and Lower Houses.

as of now は「記事が読まれている今現在」という意味である。today には ‘at the present time’ の意味で時間が長いので、as of today であれば問題ない。書き言葉では currently, presently, at present, at the time of writing などが一般的である。

書き言葉で、female を名詞として使用する場合は「差別語」になりかねない。名詞としては women を用いるようにする。female lawmakers や female Diet members のように形容詞として用いるならば容認される。

【第52回課題】

女性議員はだんだん増えてきたけど、全議員に占める割合は1割ちょっと。いまは衆参両院あわせて96人しかいない。18人いる大臣のうち、女性は2人だけ。(朝日新聞2010.11.3)

(17) 欧州各国で、教育予算の削減に反対する抗議運動が活発化している。

Protests against reduction in education budget have

been raising in every European country.

⇒ Protests against reductions in education budgets have been increasing in some European countries.

欧州各国にはそれぞれの教育予算があるので、「予算」の budgets も「削減」の reductions や cuts もそれぞれ複数形にするとよい。「抗議運動」をそのまま protest movements と訳してもよいが、protests だけでも意味を十分に伝えることができる。

raise は他動詞であるので目的語が必要になる。自動詞である increasing, developing, mounting, growing, escalating などに代えれば問題ない。

「欧州各国」を every European country と訳すと、欧州のすべての国になってしまう。現段階では、そのようなニュースは伝わっていないので、断断を避けるために some European countries とする。

【第53回課題】

欧州各国で、教育予算の削減に反対する抗議運動が活発化している。ロンドン都心では、大学生ら数千人が学費の値上げ撤回を求めて行進した。(朝日新聞2009.11.26一部改定)

(18) トヨタ自動車の世界首位の座が、危うくなっている。2010年は3年連続で世界一を維持した。

It is becoming hard for Toyota Motor Corporation to keep the first place in the world sales performance. They maintained the top for three consecutive years in 2010.

⇒ It is becoming difficult for Toyota Motor Corporation to keep first place in worldwide sales performance. TMC maintained the top rank/spot/position for the third consecutive year in 2010.

書き言葉では、hard は「硬い」という意味が多く、「難しい」という意味では difficult などが無難である。企業を表す代名詞は it, あるいは、トヨタ自動車の略称である TMC でもよい。

「3年連続で」は for three consecutive years で問題はないが、in 2010がその後にくると奇妙なことになる。She won the title for three consecutive/straight years in 2010. とすると、「2010年内に、3

年間連続してタイトルをとった」ことになってしまふ。3年の年月が必要なので、2010年内では無理である。同じことが、for three years in succession や for three years in a row などにも当てはまる。一方、for the third consecutive/straight year ならば、「連続した3年目に」の意味になるので‘in 2010’と組み合わせても問題はない。

少数ではあるが、It maintained the top position for three years in a row until 2010. とした作品があった。until 2010とすると、3年連続の中に2010年は含まれないことになる。すなわち、2007年から2009年までは首位であって、2010年は他社が首位になったことになる。

【第54回課題】

トヨタ自動車の世界首位の座が、危うくなっている。2010年は3年連続で世界一を維持したが、2位の米ゼネラル・モーターズとの差は、わずか3万台。(朝日新聞2011.1.25一部改定)

(19) 治安維持の強化キャンペーン中だった中国当局は、容疑者の男性に死刑判決を下した。

The Chinese authorities, which were campaigning to strengthen the maintenance of public order, sentenced the male suspect to death.

⇒ The Chinese authorities, who were campaigning to strengthen the maintenance of public order, sentenced the male thief to death.

Collins COBUILD Dictionary on CD-ROM 2006 に、“**The authorities** are the people who have the power to make decisions and to make sure that laws are obeyed.”とあるように、the authorities は人として扱われる。関係代名詞で続ける場合は、who が一般的である。ちなみに、Google で、「言語」は「英語」、「地域」は「アメリカ合衆国」に絞って検索したところ、2011年5月3日現在、‘Chinese authorities who’ は170,000件、‘Chinese authorities which’ は31,600だった。また、‘authorities who’ は819,000件、‘authorities which’ は365,000件であった。「地域」を「イギリス」に変更しても傾向は同じであった。

「容疑者の男性」で多かったのは the (male)

suspect であるが、男性が帽子を盗んだのが事実とすれば、the suspect 「疑わしい人物」よりは、the culprit が最適である。さらに、the suspected killer/burglar/terrorist/spy の例から類推できるように、‘The suspected man’ means the person is suspected of BEING a man. (男性であるかどうか疑わしい人) の意味になってしまう (Ryan 氏談)。

下欄にある「北京で28年前、帽子が一つ盗まれる事件があった」の部分で、There was a case in which a hat was stolen in Beijing 28 years ago. のように、「事件」を case とするとあいまいになる。case は多義語で、「犯罪事件」という意味では低頻度である。初出の場合は a case of theft のように具体的に述べるのが望ましい。case の代わりに、incident ならば1語で問題はない。なお、「帽子」は hat でも cap でもよいが、どちらか不明の場合は、cap の上位語である hat が無難である。

【第55回課題】

北京で28年前、帽子が一つ盗まれる事件があった。治安維持の強化キャンペーン中だった中国当局は、容疑者の男性に死刑判決を下した。(朝日新聞2011.2.9)

(20) 医師不足の解消につなげようと、医学部新設の準備を進める大学が相次いでいる。

Universities are successively gearing up to start a medical department in an effort to alleviate a shortage of doctors.

⇒ One after another, universities are gearing up to start medical departments in an effort to alleviate the shortage of doctors.

Collins COBUILD Dictionary on CD-ROM 2006 によれば、“**Successive** means happening or existing one after another without a break.”である。最後の without break 「途切れることなく」を尊重すれば、課題文の「相次いでいる」はそこまでの頻度は想定していないので、原文との間には齟齬が生じる。successively の代わりに、one after another を使うこともできるが、置かれる位置に注意する必要がある。Universities are gearing up to establish medical departments one after another とすると、

「(各大学が) 医学部を同じ大学内に次々と新設する」ことになってしまう。「各大学がそれぞれに」を意味するならば、One after another, universities are gearing up to establish medical departments. とするとよい。

「医師不足」は the shortage of doctors と a shortage of doctors の2つに大きく分かれた。どちらの冠詞でもよいが、地方の医師不足についてはすでに世間一般に知られているため、the shortage of doctors が好ましい。a medical department でも問題はないが、複数形である universities に合わせて、medical departments としたほうがよい。

【第56回課題】

医師不足の解消につなげようと、医学部新設の準備を進める大学が相次いでいる。新設をめざす大学側は、地域に根付いた医師の育成を目的に掲げる。

(朝日新聞2011.3.3)

3. おわりに——文法指導との関わりに

本稿での実践は、文脈のある日本語の内容を、英語らしい英語で表現することを意図している。

換言すれば、日本語から英語への語句の置き換えのみに留まらず、文脈を重視した和文英訳の実践を試みたものである。和文英訳の過程を通して、英文ライティングの技法のみならず、日英の発想と文構造の違いを理解させることも可能であろう。

その一方で、現今の英語教育において注目されているコミュニケーション中心の文法指導にも有効ではないだろうか。コミュニケーション中心の文法指導の特徴の1つとして、場面・文脈の中で言語を使用させることが挙げられる(馬場, 2009, pp. 211-212)。単語や文を単独ではなく、場面や文脈の中で提示するのである。新聞の記事は、学習者本人の現実場面とは異なるが、文脈を考えるのには好材料であり、文法を学習するための文脈を提供するものとなろう。工夫を凝らした実践に鑑みれば、和文英訳を過去の指導技術として葬りたくないと思う。

引用文献

- 岡秀夫(編著)(2011)『グローバル時代の英語教育・新しい英語科教育法』東京：成美堂
 馬場哲生(2009)「第4章 文法指導のアプローチ」『英語授業ハンドブック』東京：大修館書店